

【野球応援団解散式】

7月17日(水)の昼休みに、野球応援団解散式を行いました。野球部の一人一人から応援団に「熱い応援のお陰で力になった。」「応援のお陰で自分のモチベーションが上がり打つことができました。」「みんなの応援があったからこそ、一回戦を突破することができた。」と感謝の言葉が述べられました。応援団を引っ張ってきたリーダーたちのことばを掲載します。

廣木裕哉(3-1)さんより

私は今年度、応援団の団長を務めさせていただきました。協力しながら応援することは、野球部のパワーを引き出す凄い力になると改めて認識し、本当に凄いことだと実感しました。今後の生活にも役立てたいと思います。

小林美緒(3-1)さんより

私は3年間チアリーダーを務めてきました。最初は不安で一杯でしたが、先生方や先輩方に支えられて3年間続けることができました。チアリーダーとして野球部を応援できたことを誇りに思います。

堀江美結(2-1)さんより

吹奏楽部は昨年よりも部員が少なかったため、大きな音が出せるか不安でしたが、応援団の一人一人が大きな声を出し協力してくれたお陰で、最後まで精一杯応援することができました。来年も野球部の皆さんの背中を押せるよう頑張りたいです。



野球部3年生たち



応援団長廣木さん



チアリーダー小林さん



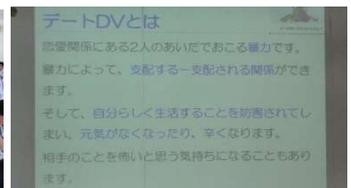
吹奏楽部長堀江さん

【デートDV 予防支援プログラム】

7月17日(水)に2年生が、常磐大学看護学部の村井文江先生を講師に迎え、デートDV予防支援プログラムを体験しました。デートDVを自分たちの身近な問題としてとらえ、予防のための意識を高めること、デートDVそのものや相談窓口に関する情報を収集することが目的です。

デートDVには、体への暴力、経済的暴力、言葉での暴力、性的な暴力など様々な種類があることを学びました。そのような状況が生まれる理由として、恋愛についての誤解があること、依存しすぎる関係があること、デートDVについて知識が不足していること等があると知り、最後にデートDVをなくすための方法について学びました。

生徒たちからは「意外に小さいことでもデートDVになっていることを知った」「気持ちや考えを伝えられるような対等な関係にならないといけないと思った」「暴力をする側もされる側も勇気をもって、言い出すことが大切で、さらに周囲のサポートが大切だと知った」などと感想を述べていました。



村井文江先生からのデートDV予防支援プログラムを受けている様子

廣木和斗(2-1)さんより

デートDV予防支援プログラムを通して、自分も相手も傷つけないように節度を守って交際することを学ぶことができました。自分で気付かないうちにデートDVをしている可能性があるということを知って、気を付けようと思いました。